

経営体の概要

- 所在地：栃木県那須烏山市
- 経営体名：個人経営
- 経営概要：酪農 ホルスタイン140頭（経産牛77頭、育成63頭）、自給飼料生産16ha、（飼料用トウモロコシ、イタリアン年2毛作）
- 労働力：4人（本人・妻・父・母）

（令和6年5月現在）

導入技術

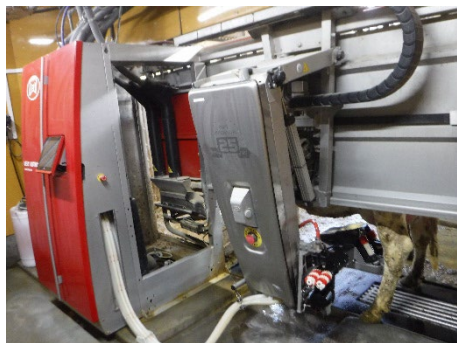
- 搾乳ロボットシステム（レリー社） アストロノートA4
 - ・ 1台で60頭の搾乳が可能
 - ・ 個体管理システムにより、個体毎の搾乳量・搾乳回数・飼料摂取量・反芻状況の把握や、乳房炎等疾病の早期発見及び活動量からの発情発見が可能

導入経緯

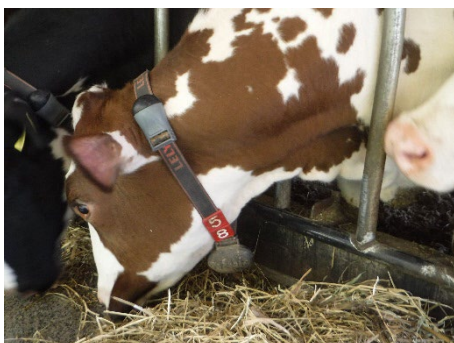
- H18自動車メーカーを退職し就農
- H29～30畜産担い手育成総合整備事業(畜産公共事業)により、フリーストール牛舎・搾乳ロボット・飼養管理システムやエサ寄せロボットなどを導入

取組の特徴・効果

- 新牛舎・搾乳ロボット導入により、平均搾乳牛頭数を41頭→77頭へ規模拡大
- 搾乳回数の増加(平均2回→3回)・乳房炎の減少により、経産牛1頭当たり年間乳量は9,700kg→11,000kgに増加
- 搾乳ロボット、エサ寄せロボット等の導入により牛舎内家族労働時間を17h/日→7h/日へ削減。削減した時間を牛の個体管理・自給飼料生産などに充当
- 個体管理システムにより発情発見が容易となったことから、分娩間隔は450日→420日、平均種付回数は3.5回→3.0回と繁殖成績が向上
- 乳量の増加により、年間所得が約10%向上



自動搾乳システム



個体管理システム